

佐久間ダム会員旅行記

今回の記念見学会に同行された正員 中倉専一郎氏（東京青写真工業社代表）より次のごとき旅行記の寄稿をうけたので以下に紹介する次第である。（編集部）

10月28日（木）

朝9時半急行阿蘇にて東京駅発小雨の空もだんだん天気が好くなるので傘を持つてきたことが悔まれる。

秋の空 心は軽るく 傘重し

隣の人は床屋さん、大垣まで往くと言う。あまり話し相手にもならず、もつぱら雑誌に読みふける。

憎くや雲 富士隠しけり 汽車の秋

2時半豊橋にて飯田線に乗り換え、名須川君と同席日本舗道更生の手柄話を聴き天龍の峡谷美を眺めつつ6時半天龍峡駅着、天龍峡ホテルに入る。浴後宴会、鱒、鯉、蜂の子、茸等の珍味、飯田芸妓の本場伊那節天龍踊等に興じ満酔ただちに寝につく。

10月29日（金）

5時半起床同室の安東氏と散歩。橋上、見晴台等に登り天龍峡の絶景を賞す。

絶壁に 飛沫く流れに 紅葉散り

龍峡亭に佐藤氏を訪ね叩き起して敬意を表す。この宿は座敷も食堂も溪谷に臨み眺望ことに佳なり。ホテルに帰り朝食を摂る。

惜しむらくは巖頭に砕くる飛沫を檜笠に避けて激流を下る舟行の壮快なるスリルを味う時間がなく7時半天龍峡駅発、8時50分大嵐駅着国鉄飯田線大原トンネル工事事務所に入り防水外套を着、長靴を穿き岩石運搬列車に乗ってトンネルに入る。

切端まで約1kmあまり、下車してジャンボの説明、大型ショベルの運転状況を見学する。トンネル掘削技術の進歩と、機械力の偉大なのに一驚した。坑外

に出て工具修理工場を覗いた後、所長の説明を聴き11時大嵐駅発同40分中部天龍駅着、ただちにバスにてダム建設所に至り昼食、所長の説明を聴く。終つてバス3台に分乗し現場を視察、山丘を攀ち、溪谷の底に降り、トンネルを潜り、架橋を渡り、此岸より彼岸に縦横に工事場を縫つて見学する。

ダム頭の位置に立つて基底を俯瞰すれば工人あたかも蟻のごとし、この間絶壁200m、肌に乗を生ずるを覚えた。この上に架せる空中ケーブル全長380m余、容量25t、けだし壮観というべし。蜿々長蛇のごときコンベヤー谷を過ぎり山腹を這い多数のショベル、ブルドーザー等あらゆる機械力を利用せるまたその規模の大なる未だ曾て見ざるところなり。

天龍も エンジニアに 兜ぬぎ

天龍を締め切つてトンネルを穿ち流水を付け換えるだけでも相当の大工事である。ましてやダムを建設するにおいてをやである。

最後に発電所工事と圧力トンネルの工事を見る。直径7mの巨大なる圧力トンネル2本並行す。まず1号トンネルを500mばかり入りショベルの運転状況を見次いで2号トンネルは300mくらいにしてジャンボによる掘削の状況を見る。

やがてこのトンネル完成の上は天龍川はこの中を通り35万kWの電力となつて人の代りや、石炭の代りを勤めることとなる。

天龍も ^{土窟}となりて 地下くぐり

工事説明書や問組のお土産に膨れた鞆を抱えて3時半中部天龍駅発5時50分豊橋駅に着いた。

土木学会刊行物

土木工学論文抄録 第3集
第4集
コンクリート標準示方書(昭和26年度)
コンクリート標準示方書解説
最新土木製図基準(I)
昭和26年夏季講習会パンフレット
II 橋 梁
昭和27年夏季講習会パンフレット
建設機械化
昭和28年夏季講習会パンフレット
プレストレストコンクリート構造力学
昭和29年夏季講習会パンフレット
学術用語集土木工学編
土木工事写真集

A 4判 230頁	実費 500円	(送料 60円)
A 4判 173頁	" 450円	(" 60円)
B 6判 266頁	" 180円	(" 30円)
B 5判 167頁	" 300円	(" 30円)
	会員特価240円	
B 5判 138頁	実費 150円	(" 30円)
B 5判 46頁	" 200円	(" 30円)
B 5判 92頁		
B 5判 92頁	実費 200円	(送料 共)
	会員特価150円	
B 5判 176頁	実費 300円	(送料 30円)
B 5判 190頁	" 300円	(" 30円)
B 5判 130頁	" 300円	(" 30円)
	会員特価250円	
B 6判 416頁	実費 315円	(" 35円)
A 4判 264頁	" 1500円	(" 100円)
	会員特価1000円	

土木学会

東京都千代田区大手町2丁目4番地
振替・東京 16823・電話 (20) 3945・4078